

平成29年度埼玉県学力・学習状況調査

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

分析・活用の手順

STEP 1

自校の実態を把握し、分析の視点を決める

- ・ 自校の子供の「学力の伸び」「学力レベル」はどれくらいかな？
- ・ 学力を特に伸ばしている学年や学級、教科があるぞ。

STEP 2

自校の取組にはどんな効果があったのかを分析する。

- ・ 伸びた学年、学級、教科では、どんな工夫をしていたのだろうか？
- ・ 帳票のデータに特徴はないかな？担当者から聞き取ってみよう！
指導法の工夫、学年・学級経営、家庭学習、生活習慣・・・

STEP 3

校内で課題と方策を共有し、学校全体で取り組む

- ・ 分析結果を、校内研修の資料にして、課題や方策を話し合おう！
- ・ 学校全体で、方策を実践し、授業を改善しよう！
- ・ コバトン問題集等を使って実践の成果を確認しよう！

<分析をさらに進めるために>

EXTRA

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る

- ・ どんな取組が学力を伸ばしているのだろうか？
- ・ 相関関係から、自校の成果や課題を見つけてみよう！

STEP 1 自校の概要を知る

今年度
新規!

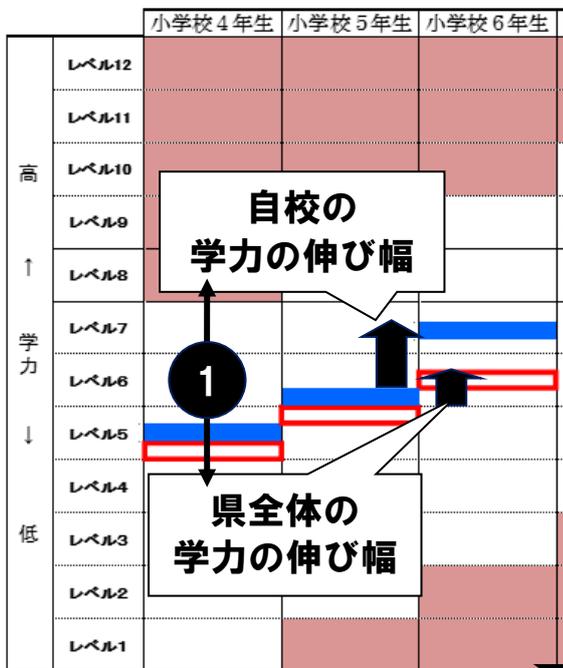
帳票28「各実施主体の調査結果票」には、各学校の結果の概要がわかりやすくまとめられています。帳票28から自校の概要を確認し、分析の視点を見つけてください。

(1) 年度間の学力の変化 【帳票28】

(各学年、各教科の「学力の伸び」、「学力レベル」の状況がわかります)

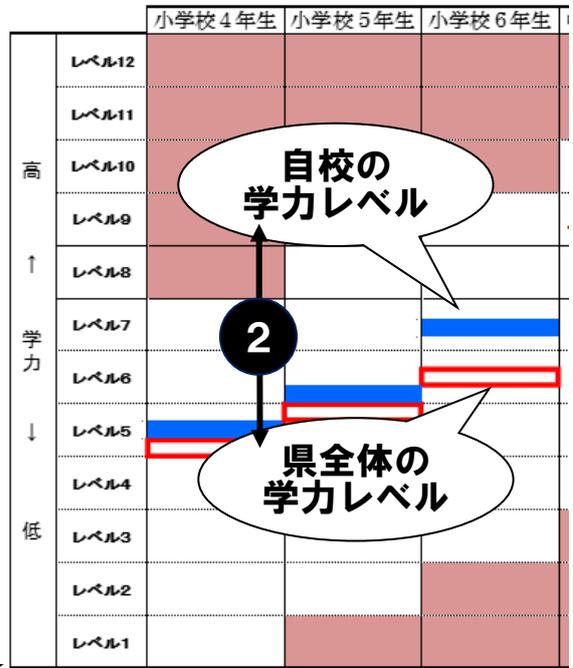
【着目する視点】

1 自校と県全体の
学力の伸び幅の違い
⇒伸び幅が県平均よりも大きい
学年や教科を見つける。



【着目する視点】

2 自校と県全体の学力レベルの違い
⇒学力が県平均を上回っている
学年や教科を見つける。
⇒学力が他学年の同時期を上回っている
学年や教科を見つける。

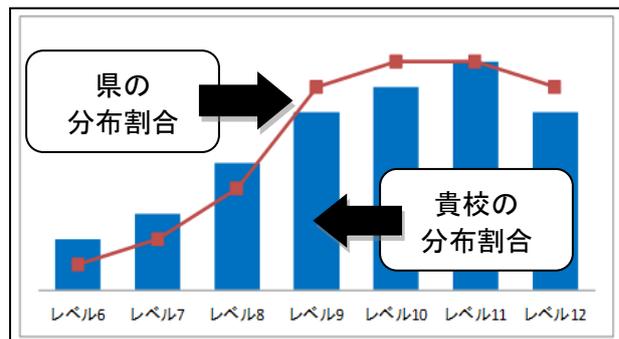


「伸び幅が大きい」「学力が高い」学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります。

<参考>

帳票28には、各レベルに属する児童生徒の割合が、県全体の平均と比較できるよう、**学力レベルのヒストグラム**も掲載しています。

自校にどの学力レベルの児童生徒が多いかを把握できます。「学力の伸び」と併せて見ることで、どの学力階層への取組を重点化するかなどの参考としてみてください。

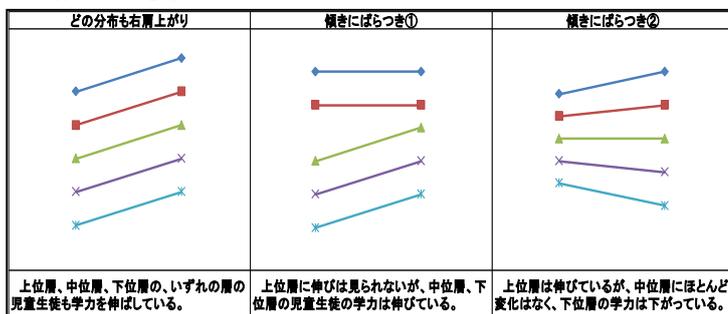


(2) 学力階層別の伸びの状況

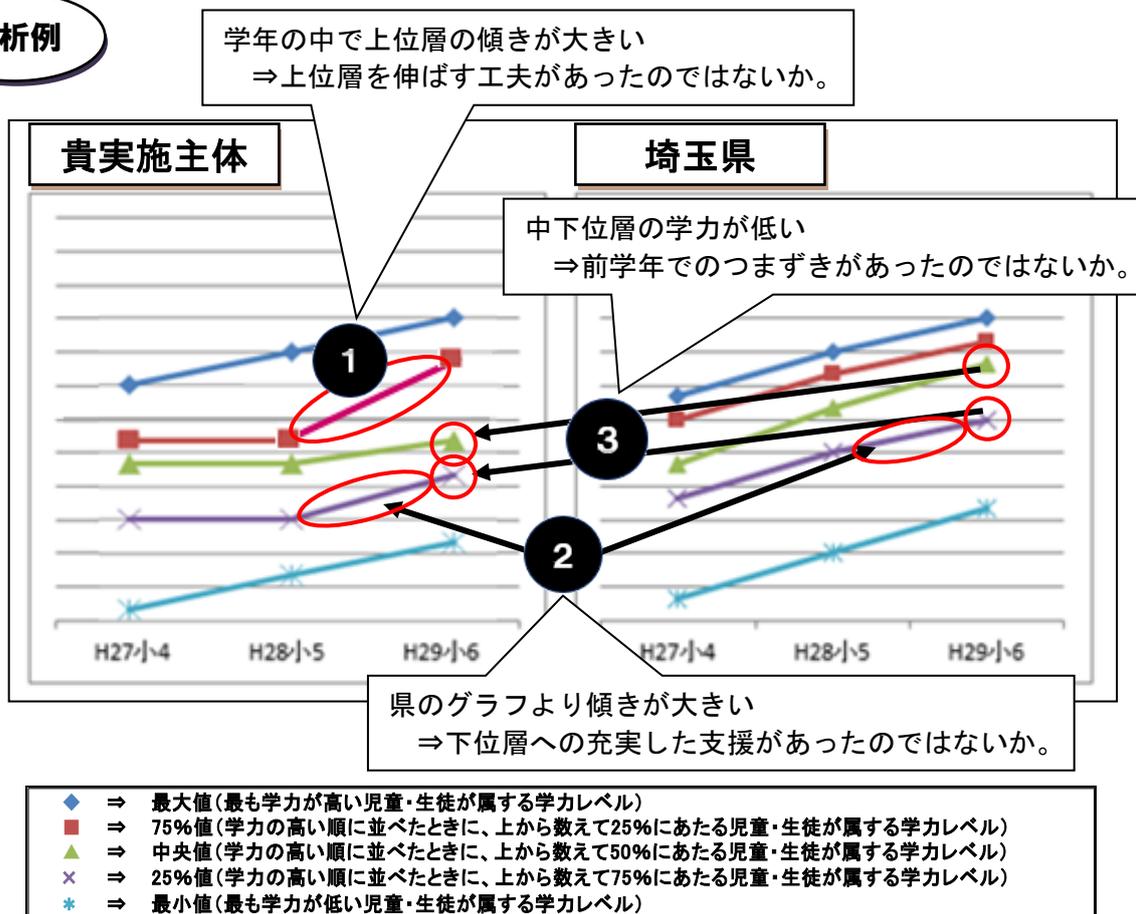
【着目する視点】

- 1** 学力階層別の伸びの状況
 ⇒各学年の中で傾きが大きい学力層を見つける。
- 2** 埼玉県のグラフの傾きとの比較
 ⇒県平均より傾きが大きい学年や教科を見つける。
- 3** 各学力層の学力レベル
 ⇒県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見つける。

＜傾きの捉え方＞



分析例



※ 帳票26では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

STEP 2 伸びている学年・学級の特徴を分析する

学力が伸びているのは、前年度の学年や学級での指導の成果です。

STEP 1で見つけた、伸びている学年や教科、学級の理由を分析します。

学年・教科の分析

【方法① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・授業の導入場面での工夫（興味を持たせる導入、めあて・見通しの持たせ方等）
- ・授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

聞き取りのポイント

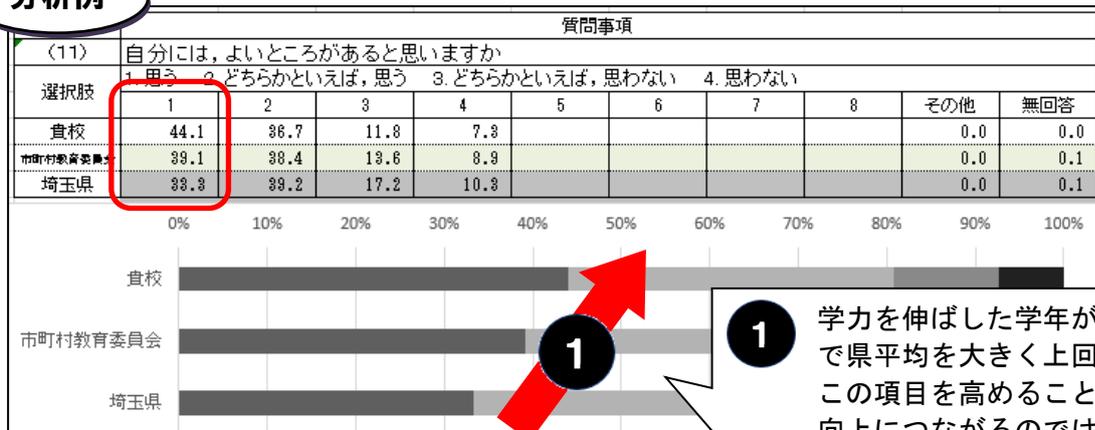
- ・上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

学年の分析

【方法② 質問紙への回答の比較】

- 伸びが見られた学年の帳票10「児童生徒質問紙調査 集計データ」を県や市の平均と比較する。

分析例



該当する学年や教科指導に見られた効果的な取組を把握し、学校全体で共有することで、指導改善を図ります。

学級の分析

【分析の方法③ 前年度の学級による並び替え】

**今年度
新規!**

1

帳票1「教科に関する調査 採点結果」を、前年度の学級で並び替える。

2

学力の伸びの数値から、「学力の伸びの平均」や「伸びている児童生徒の割合」等の視点で、前年度の学級を分析する。

学年	組	出席番号	性別	個人番号	H29レベル	2 昨年度からの学力の伸び	H28 学校名	1 H28 学年	H28 組	H28 出席番号
6	2	1	1	1000001	7-B	-1	〇〇市立△△小学校	5	3	2
6	2	2	2	1000002	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	1	9
6	2	3	1	1000003	9-A	6	〇〇市立△△小学校	5	2	13
6	2	4	1	1000004	9-C	1	〇〇市立△△小学校	5	2	14
6	2	5	2	1000005	6-B	3	〇〇市立△△小学校	5	2	15
6	2	6	1	1000006	8-C	-2	〇〇市立△△小学校	5	3	11
6	2	7	2	1000007	6-A	2	〇〇市立△△小学校	5	3	12
6	2	8	2	1000008	5-C	-1	〇〇市立△△小学校	5	3	13
6	2	9	1	1000009	8-C	3	〇〇市立△△小学校	5	1	13
6	2	10	1	1000010	7-B	-3	〇〇市立△△小学校	5	1	16
6	2	11	1	1000011	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	3	18
6	2	12	2	1000012	7-A	2	〇〇市立△△小学校	5	1	3

【学力の伸びの平均を求める方法】

<手順1>

学級全員の伸びを合計する。

<手順2>

手順1で求めた伸びの合計を、
学級の受検者数で割る。

【伸びている子供の割合を求める方法】

<手順1>

学級の中で、学力の伸びが”正の数”
の児童生徒数を数える。

<手順2>

求めた人数を、学級の受検者数で割る。

- 「学力の伸びの平均が大きい学級」「学力を伸ばした児童生徒の割合が多い学級」を担当した教員から、学級経営で意識していたことや取り組んだこと、授業で工夫したこと等の聞き取りを行う。

その学級に見られた効果的な取組を把握し、学校全体で共有することで、指導改善を図ります。

STEP 3 校内研修の充実に向けて

<手順1> 帳票を使って、自校の状況を把握する。【STEP 1、2を参照】

- 【帳票28】を使って、学力を伸ばした学年や教科を把握します。
【帳票1】を使って、学力を伸ばした学級を把握します。
- 学力を伸ばした学年、学級等の担当から、力を入れてきた取組等の聞き取りを行います。

<手順2> 分析した結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換をする。

- 帳票のデータや聞き取りの結果を資料にまとめます。
- 校内研修や学年会などで、作成した資料をもとに、協議や意見交換を行います。

校内研修例

協議例1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

<手順3> 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行う。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年(学校)独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目> (本校の実態及び協議・意見交換から設定)

- 例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。
② 授業規律を大切にする。
※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

<手順4> 分析支援プログラムを使って、さらに分析を深める。【次ページ以降を参照】

- 「学力の伸び」、「学力の階層」と質問紙への回答の相関関係を調べます。

校内研修例

協議例3 学力の伸びと質問紙への回答との関連からどんなことがわかるか。

- 相関関係がある(ない)理由を話し合い、授業改善のヒントを探したい。
- 伸びていない子供への支援の仕方を改善する方法を話し合いたい。
- 他の学年や他の教科の状況と比較し、当該学年の課題を解決したい。

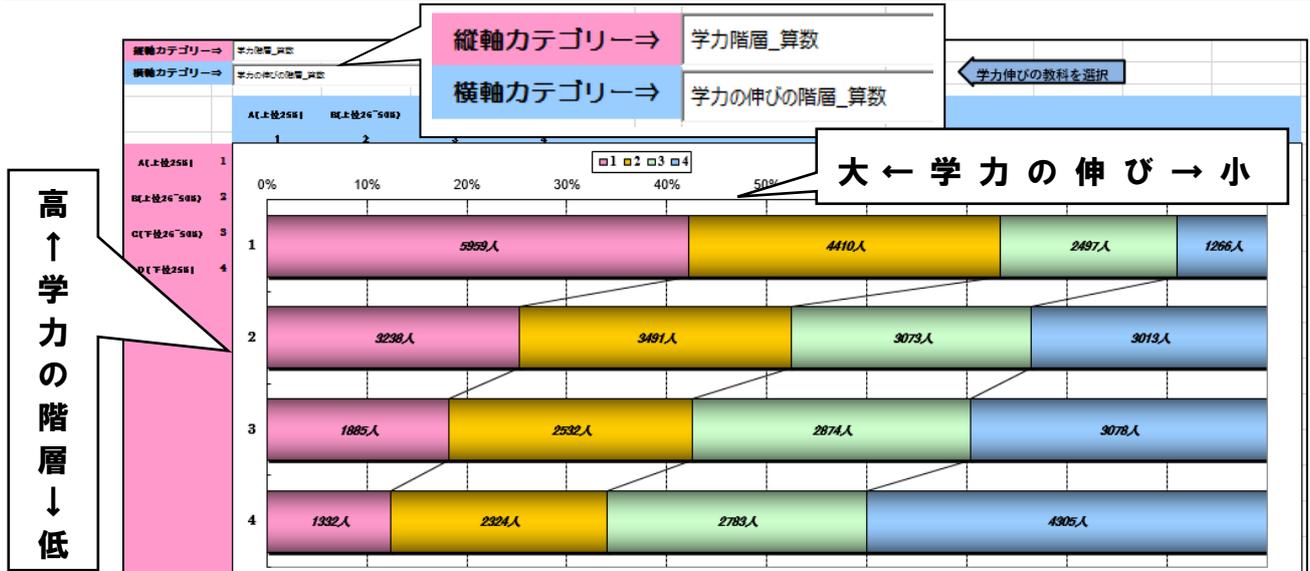
EXTRA 分析支援プログラムを活用する

分析支援プログラムを使うと、「学力の伸び」や「学力の階層」と質問紙調査との相関関係を簡単に見ることができます。

活用例① 「学力の階層」と「学力の伸び」の相関を調べる

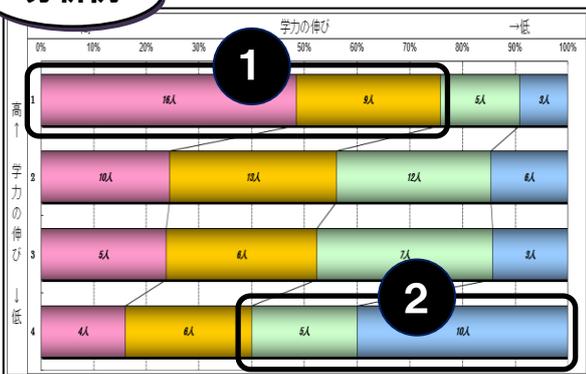
※ 分析支援プログラム「①クロス集計」を利用します。

手順1 「学力の伸びの階層」と「学力の階層」をクロス集計し、それらの分布をみる



手順2 自校の子供たちの学力を、「学力の伸び」と「学力の階層」の視点から分析する

分析例



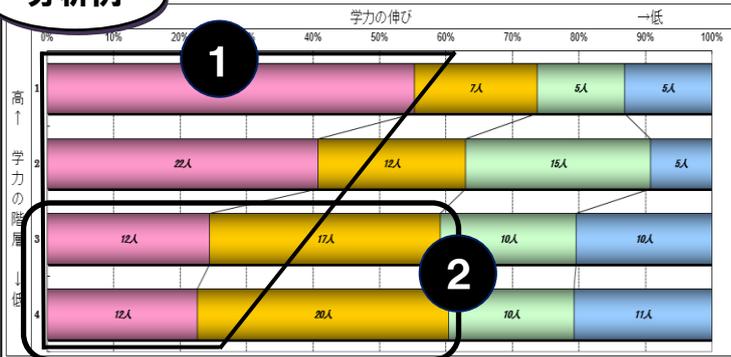
1 学力が高い階層は学力が伸びている。

2 学力が低い階層は学力が伸び悩んでいる。

⇒理解の進んでいる子供の発言を中心に授業が進んでいないか。

⇒学力階層の低い児童生徒が自分の考えを持てるような支援が必要ではないか。

分析例



1 学力の高い階層の方が、学力の伸びが大きい。

2 学力が低い階層の伸びをさらに高める必要がある。

⇒各階層に属する児童生徒により構成されるグループ等で、互いの考えを交流する場面があるとよいのではないか。

活用例② 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析

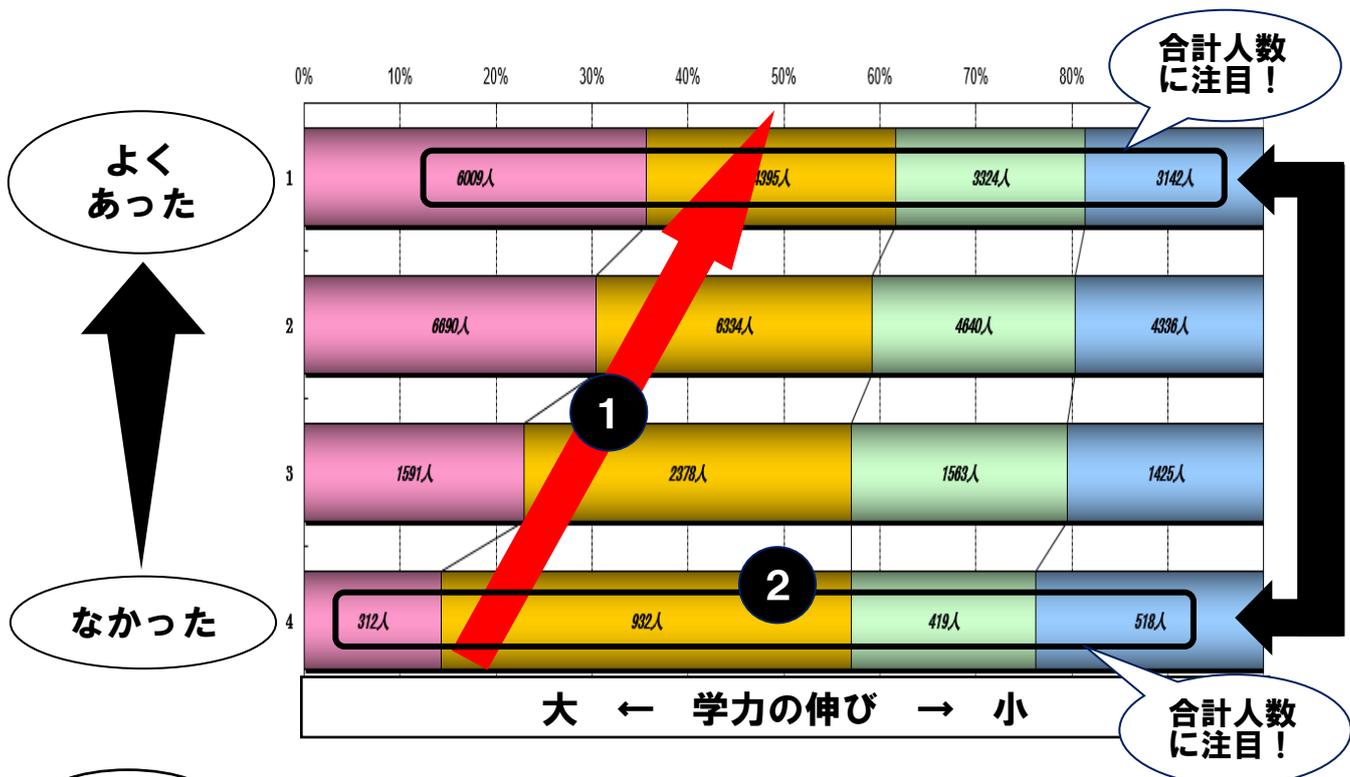
※ 分析支援プログラム「①クロス集計」を利用します。

手順1 分析の視点を設定し、該当する質問紙の項目を選ぶ。

分析視点例1 どのような授業が、児童生徒の学力を伸ばしているのか？

手順2 「質問紙項目」と「学力の伸び」の視点から分析する。

質問紙項目例 自分の考えを理由を付けて発表したり書いたりできたこと



分析例

- 理由を発表したり、書いたりする機会が「よくあった」と感じている児童生徒の方が、学力の伸びが大きい傾向がある。
⇒教科を問わず、解答するときは答えだけではなく、その理由を聞き返すようにしたらよいのではないか。
- 理由を発表したり、書いたりする機会が「よくあった」と答えている人数のほうが、なかったと答えている人数より多い。
⇒発表のときに答えだけでなく、その理由も考えている児童生徒が多い。何か工夫があるのではないか。
⇒なかったと回答する児童生徒を減らすために、どのような取組を行ったらよいだろうか。

手順1 分析の視点を設定し、該当する質問紙の項目を選ぶ。

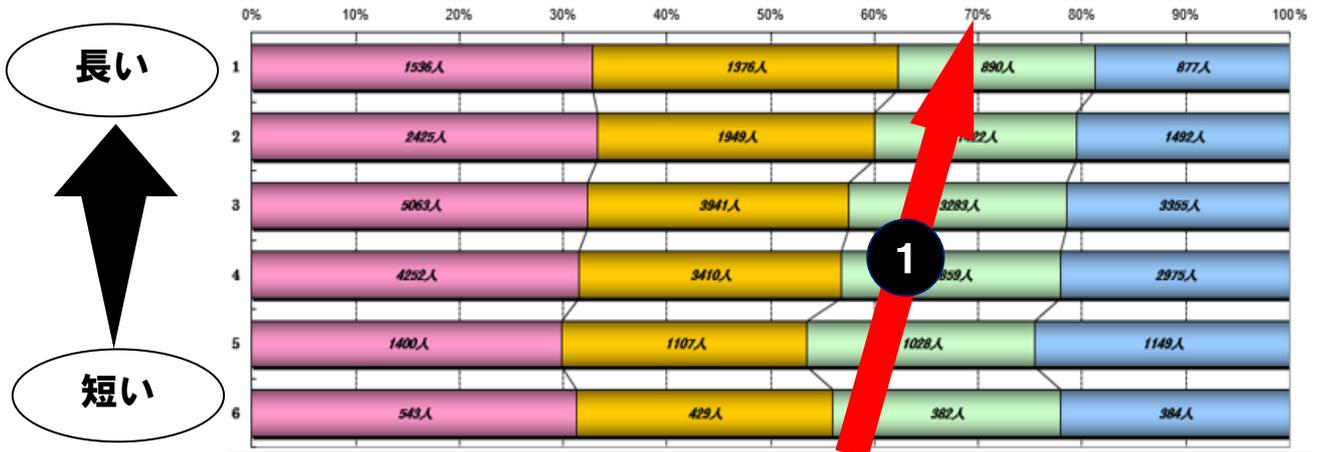
分析視点例2

家庭での学習の状況を知りたい。

手順2 「質問紙項目」と「学力の伸び」の視点から分析する。

質問紙項目例

学校の授業以外に、月～金、1日どれくらいの勉強をしますか。



質問紙項目例

学校の宿題をしていますか。



分析例

- 授業以外に勉強に取り組む時間が長い方が、学力の伸びも大きい。
⇒ 家庭学習の時間を、しっかり確保するために、学年ごとに学習時間の目安を示すとよいのではないか。
- 宿題を行っていないと回答した児童生徒も一定数いる。宿題への取組状況と学力の伸びには相関関係が見られる。
⇒ 宿題を行っていない児童生徒へのどのような支援を行うか。

- 各学校へ送付した帳票やデータは、それ自体の内容から分析を行うことはもちろんですが、併せ見たり、組み合わせたりすることで、多様な分析を行うことができます。
- 分析例を参考に、多面的な分析を行うことで、効果的な取組や課題の把握につながります。

